

せいれいこうりんごだい
聖霊降臨後第17 主日(特定20)

とくとう
特 祷

あわれみ深い全能の神よ、どうか主の豊かな恵みによって、すべての害あるものから守って下さい。からだと魂とに備えをし、あなたのみ心の思いを喜んでなし遂げることができましように、父と聖霊とともに一体であって世々に生き支配しておられる主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

《旧約聖書》

しよ
ヨナ書

第3章10節から第4章1節から11節

10 神は彼らの業、彼らが悪の道を離れたことを御覧になり、思い直され、宣告した災いをくだすのをやめられた。

ー ヨナにとって、このことは大いに不満であり、

かれ いか
彼は怒った。 2 彼は、主に訴えた。

「ああ、主よ、わたしがまだ国にいましたとき、言ったとおりではありませんか。だから、わたしは先にタルシシュに向かって逃げたのです。わたしには、こうなることが分かっていました。あなたは、恵みと憐れみの神であり、忍耐深く、慈しみに富み、災いをくだそうとしても思い直される方です。 3 主よどうか今、わたしの命を取ってください。生きているよりも死ぬ方がましです。」

4 主は言われた。

「お前は怒るが、それは正しいことか。」

5 そこで、ヨナは都を出て東の方に座り込んだ。そして、そこに小屋を建て、日射しを避けてその中に座り、都に何が起こるかを見届けようとした。

6 すると、主なる神は彼の苦痛を救うため、とうごまの木に命じて芽を出させられた。

とうごまの木は伸びてヨナよりも丈が高くなり、頭の上に陰をつくったので、ヨナの不満は消え、

このとうごまの木を大いに喜んだ。7 ところが翌日の明け方、神は虫に命じて木に登らせ、

とうごまの木を食い荒らされたので木は枯れて

しまった。8 日が昇ると、神は今度は焼けつく

ような東風に吹きつけるよう命じられた。太陽

もヨナの頭上に照りつけたので、ヨナはぐった

りとなり、死ぬことを願って言った。

「生きているよりも、死ぬ方がましです。」

9 神はヨナに言われた。

「お前はとうごまの木のことと怒るが、それは

正しいことか。」

彼は言った。

「もちろんです。怒りのあまり死にたいくらい

です。」

10 すると、主はこう言われた。

「お前は、自分で労することも育てることもな

く、一夜にして生じ、一夜にして滅びたこのと

うごまの木さえ惜しんでいる。11 それならば、

どうしてわたしが、この大なる都ニネベを

惜しまずにいられるだろうか。そこには、

十二万人以上の右も左もわきまえぬ人間と、
無数の家畜がいるのだから。」

《使徒書》

フィリピの信徒への手紙

第一章 21 節から 28a 節

21 わたしにとって、生きるとはキリストであり、

死ぬことは利益なのです。22 けれども、肉にお

いて生き続ければ、実り多い働きができ、どち

らを選ぶべきか、わたしには分かりません。

23 この二つのことの間で、板挟みの状態です。

一方では、この世を去って、キリストと共にい

たいと熱望しており、この方がはるかに

望ましい。24 だが他方では、肉にとどまる方が、

あなたがたのためにもっと必要です。25 こう

確信していますから、あなたがたの信仰を

深めて喜びをもたらすように、いつもあなたが

た一同と共にいることになるでしょう。

26 そうなれば、わたしが再びあなたがたのもと

に姿を見せるとき、キリスト・イエスに

結ばれているというあなたがたの誇りは、わた

しゆえに増し加わることになります。

27 ひたすらキリストの福音にふさわしい生活

を送りなさい。そうすれば、そちらに行つてあ

なたがたに会うにしても、離れているにしても、

わたしは次のことを聞けるでしょう。あなたが

たは一つの霊によつてしっかりと立ち、心を

合わせて福音の信仰のために共に戦つており、

28 どんなことがあつても、反対者たちに

脅されてたじろぐことはないのだと。

《福音書》

マタイによる福音書

第20章 1節から16節

1 「天の国は次のようにたとえられる。ある

家の主人が、ぶどう園で働く労働者を雇うため

に、夜明けに出かけて行つた。2 主人は、一日

につき一デナリオンの約束で、労働者をぶどう

園に送つた。3 また、九時ごろ行つてみると、

何もしないで広場に立っている人々がいたので、

4 『あなたたちもぶどう園に行きなさい。ふさ

わしい賃金を払つてやろう』と言つた。5 それ

で、その人たちは出かけて行つた。主人は、

十二時ごろと三時ごろにまた出て行き、同じよ

うにした。6 五時ごろにも行つてみると、ほか

の人々が立っていたので、『なぜ、何もしないで

一日中ここに立っているのか』と尋ねると、

7 彼らは、『だれも雇ってくれないのです』と

言つた。主人は彼らに、『あなたたちもぶどう園

に行きなさい』と言つた。8 夕方になって、ぶ

どう園の主人は監督に、『労働者たちを呼んで、

最後に来た者から始めて、最初に来た者まで順

に賃金を払ってやりなさい』と言った。9 そこ

で、五時ごろに雇われた人たちが来て、一デナ

リオンずつ受け取った。10 最初に雇われた人た

ちが来て、もっと多くもらえるだろうと思って

いた。しかし、彼らも一デナリオンずつであつ

た。11 それで、受け取ると、主人に不平を言った。

12 『最後に来たこの連中は、一時間しか

働きませんでした。まる一日、暑い中を辛抱

して働いたわたしたちと、この連中とを同じ

扱いにするとは。』13 主人はその一人に答えた。

『友よ、あなたに不当なことはしていない。あ

なたはわたしと一デナリオンの約束をしたでは

ないか。14 自分の分を受け取って帰りなさい。

わたしはこの最後の者にも、あなたと同じよう

に支払ってやりたいのだ。15 自分のものを自分

のしたいようにしては、いけないか。それとも、

わたしの気前のよさをねたむのか。』16 このよ

うに、後にいる者が先になり、先にいる者が後

になる。」

「詩編」については週報をご覧ください。

2020 年 9 月 20 日

信徒作成

詩編第145編 8節-13節

祈禱書915頁

皆様は太字の節を唱えてください。

Ⅱ 後の言葉は、一呼吸おいてからよみましょう。

8. 主は恵みと憐れみに満ち Ⅱ 怒るに遅く、慈しみ深い

9. 主の恵みはすべてのものに及び Ⅱ 慈しみは造られたすべてのものの上にある

10. 主よ、造られたすべてのものはあなたをたたえ Ⅱ 忠実な僕たちは感謝して歌う

11. 彼らはみ国の栄光を語り Ⅱ 力あるみ業を告げる

12. 人の子らはあなたの力あるみ業と Ⅱ み国の栄光を知るようになる

13. あなたの国は永遠の国 Ⅱ あなたの支配は世々に及ぶ